

## 日本のものづくり産業を支える生粋の技術屋

技術コンサルティング、受託開発まで請け負う独自の事業を展開



日本のものづくり産業を活性化させたい、盛り上げたい  
という想いが強くあります

### 株式会社セルネオテック

代表取締役 菅原 慎也

戦後の焼け野原から目覚ましい経済成長を遂げた日本。1980年代からはトヨタ、日立、松下、東芝などといった国内屈指の製造業が世界市場を席巻。成長の果てに、日本は世界をリードする「ものづくり大国」となり、まさに隆盛期を迎えた。しかし、現在はどうかだろうか。アメリカや中国が世界をリード。新興国にも押され、日本はすっかり勢いを無くしてしまっただろうか。

「労働力不足や価格競争など、衰退の要因は様々ありますが、日本人特有の器用さや緻密さを活かした技術力は今でも世界一。この強みを武器に、再び日本を世界に誇る「ものづくり大国」に復活させられればと考えています」

こう力強く語るのには、かつてのものづくり大国を支えた1人で、株式会社セルネオテック代表取締役を務める菅原慎也氏。

「当社の活動を通して、日本のものづくり産業を下支えしたい」と意気込む菅原代表に、これまでの歩みや現在の事業にかける想いなどを伺った。

### 山梨大学工学部を卒業し、ものづくりの道へ 大手、中小と渡り歩いて、満を持して独立

1955年生まれ、現在69歳の菅原代表。小さな頃から手作業が好きで、山梨大学工学部へ。卒業後は、松下電器産業(現パナソニック)に入社。オーディオ事業部に配属され、主にアナログプレーヤーやCDプレーヤーのメカ設計に携わってきた。「入社は1979年。日本の製造業がちょうど隆盛期を迎える時期でした」

図らずも、オーディオ機器の設計を通して日本の音楽文化を支えていた菅原代表だったが、いつしか独立

の道を思い描くようになる。「もつと自分自身が成長したいという想いと共に、将来的に自分で会社を持ちたいと考えるようになりました」

「独立のためにはもつと幅広いスキルや知識が必要だろう」と、松下電器産業退職後は、当時カシオ計算機の子会社だった甲府カシオへ。ここでは、カシオブランド製品や他社OEM製品の設計、海外工場での量産立ち上げに携わった。「甲府カシオ時代は、設計に欠かせない3D-CADを実践的に活用できたことが、私の大きな財産になりました」

その後、さらなる経験を積むため、甲府カシオを離れ、今度は埼玉県にある従業員20名程の開発ベンチャーへ。役員として、主に本田技術研究所の開発業務に携わった。

大学卒業後から30年あまり、松下電器産業、甲府カシオ、開発ベンチャーと渡り歩いてきた菅原代表は、ついに独立を実行に移すことに。2014年、山梨の地でものづくり企業支援を主業務とするセルネオテック株式会社を設立。59歳の時だった。

「私は広島出身で大阪育ちですが、妻の故郷であり大学時代を過ごした山梨は第二の故郷のようでとても愛着がありました。そんな山梨に少しでも貢献できればと、この地で事業を始めることとなりました」

### 社名に込めた想い。一人会社へのこだわり

#### 紹介、口コミで仕事は年々増加。事業は順調に推移

社名の「セルネオテック」。とても個性的でキャッチーなネーミングだが、この名には菅原代表の仕事に対するこだわりが詰まっている。「セル細胞は、一つひとつでも多くの潜在能力を有するものですが、細胞同士集合すると、さらにとつともない能力を発揮します。ネオテックは、新しいものに挑戦する技術力」

ということ、常に広範囲にアンテナを張り、既成概念にとられない柔軟な発想で新たなものを生み出すという点により、チャレンジし続けていくという想いが込められています」

1つの細胞のように、菅原代表は生涯一人会社を貫く方針。そして仕事の規模や内容により、他の細胞<sup>①</sup>他の独立して活動するメンバーとチームを組むなど、フレキシブルに対応していく。「1人になったりチームを組んだり、自由に活動ができるところが気に入っています」

セルネオテックとして0から始まった菅原代表の経営者人生だが、スタート後すぐに大きな仕事を手掛ける機会を得る。「すでに独立して活躍していた甲府カシオ時代の先輩から、『仕事を手伝ってくれないか』と誘いを受けました。大きなプロジェクトだったので、私も参画させていただくことができました」

仕事は無事に完遂。すると、仕事を手掛けた会社から、すぐにリピートで菅原代表指名の依頼が舞い込む。「リピートいただけるのは、私の仕事に満足いただけただけの証かなと。とても嬉しかったですね」

こうして創業以来、リピートや紹介、口コミなどを中心に依頼を受け、仕事の幅は着実に広がっていった。「創業から10年を超えましたが、ここまでの歩みは予想以上のもので順調の一言。仕事をいただけるお客様に感謝はもちろんですが、一緒にチームを組んでいただけの仲間にも感謝。本当に周りに恵まれた10年だったと思います。ご依頼いただいた会社のために、その会社の立場で活動することがいかに大切なことも学びました」

### 技術スタッフへの教育・指導、製造現場の改善支援を行う「技術コンサルティング」

#### 「3D-CADの正しい活用方法をもつと啓蒙・発信していきたい」

菅原代表が手掛ける事業は大きく2つ。まず対象は国内の中小・大手の製造業。この分野に対し、技術コ



3D-CAD を用いることで効率的に設計業務を行うことができる

ンサルティングと開発受託を提供する。

「コンサルティングに関しては、主に社員の方々に対するものづくりに関する教育・指導、設計現場や製造現場の改善支援、知財関連の支援を提供させていただきます」

こうした中で、菅原代表が創業以来力を入れて取り組んでいるのが、設計に必須である「3D-CAD」を用いた実践的な設計教育だ。「3D-CADをテーマとした講演会などが、全国各地で行われていますが、内容は個々の実情にあったものではない画一的なもの。これに対して私が提供するの、それぞれのお客様の実情に合った設計手法や3D-CADの実践的活用方法です」

菅原代表は、「各企業様において、3D-CADの導入は進んでいる一方、そのポテンシャルを最大限引き出せているかは疑問」だという。

「普通、2次元の設計図面からものを加工する場合、たとえば、直径10mmの棒を10mmの穴に入れようと思っても実際は入らないのですが、加工者が図面から公差を含めた寸法を読み取って加工を行うので10mmの棒は10mmの穴に入るようになります。一方、3

次元（3D-CAD）の場合は、最初から実際に棒を穴に入れられる設計データを作成すれば、加工工程にダイレクトに移行することができる。工程が省けて現場の人の負担を減らせる部分が3D-CADの真骨頂というわけです。しかし、現状はほとんどの現場で2次元と同様（もしくはそれ以上）の手間が掛かってしまっている。要は使いこなせていないのです」

「棒が穴に入るための条件を理解できているか」「ここが3D-CADを使いこなすポイント」だという菅原代表は、このポイントを「スキマ設計」という言葉に変えて、設計製造現場の技術者たちに伝えている。「大手の技術者の方々でも3D-CADを使いこなせていないというのが私の実感。時短や作業効率に直結しますので、少しでもスキマ設計の考えを広めていきたい」

### 実際の製品開発を請け負う「受託開発」

#### 開発を請け負った「介護ケア」が技術賞を受賞

もう1つの事業の柱である「受託開発」。これに関しては、「お客様の持つ技術を活かした製品開発を、当社で請け負って具現化するといった流れです」と説明。

こうした受託開発依頼のニーズは近年増えているという。その要因を菅原代表は次のように語る。「端的に言えば、中小企業様の「下請けからの脱却」です。『会社の発展・成長のために、自社の持っている技術を活かして自社のオリジナル製品を生み出したい』。そういった相談が近年、当社にも多く寄せられるようになりましした」

普通のコンサルティング企業なら、製品の開発アイデアの考案までの支援はあるだろう。しかし、セルネオテックはアイデアを一緒に考えてきた上で、開発まで請け負ってしまう。ここは同社ならではの大きな



企業の社員向け実践講習ではオリジナルの教育プログラムを作成

セルネオテックは創業から11年が経過。実績を重ねるごとに評判が評判を呼び、仕事依頼は増加。現在も多忙ながら充実した日々を送る菅原代表に、改めて今後の展望を伺った。「私は今69歳ですが、頭と体が動く限り事業を続けたいなど。目指すは一生現役です」

さらに、「もう一つ、大きなビジョンとして、日本のものでづくり産業を活性化させたい、盛り上げたいという想いが強くあります」とも。

「再び日本のものでづくりを復活させるためのカギは、次代を担う若い人材です。私自身、若い世代の方々に、ものでづくりの楽しさや面白さを伝えていけるような役割も担っていかれたらという風に考えています」

こう語る菅原代表が考えるものでづくりの魅力とは？

「まず、仕事をした先に、形となったモノがあるという点ですね。そして、このモノというのは絶対に嘘をつきません。良い仕事をすれば良いモノができるし、手を抜けばそれなりのモノしかできません。まさにごまかしがきかない。この点に私はやりがい

強みの部分といえる。

これまで医療機器、コンシューマー製品、車部品、機械設備など、多彩なジャンルの製品開発を請け負い、このうち十数件は特許も取得している。

「数多くの開発に携わらせていただきましたが、印象に残っているのは土橋製作所様と開発させていただいた製品です」

元々部品製造及び生産設備メーカーの土橋製作所が、『自社のノウハウを活かしてB to C向けのオリジナル製品を開発したい』とセルネオテックに前出の先輩を通して相談。受託開発を請け負った。

製品アイデアを練りに練り、辿り着いたのが、独自の機能をもつ「イス」だった。「色んな特徴を備えましたが、一番の特徴は背面と座面の連動。背面がリクライニングするとそれに合わせて、座面がチルト（後傾）する仕組みになっています。これにより、腹部や坐骨周辺の圧迫感が軽減され、ふんわりとした浮遊感が得られるのです」

製品名は、リクライニングとチルトをかけたあわせた「リクチル」。一般向け2種、介護チェアとして1種、計3種のリクチルシリーズを展開。2023年には、介護チェア「リクチルII」が日本福祉工学会より「技術賞」を受賞。新聞にも取り上げられるなど反響も大きく、現在販売も順調に推移しているという。

「自ら生み出した製品が世の中で使われる。それを見るとやはり嬉しくなります。ものでづくりに携わる者の醍醐味ですね」

目指すは「一生現役」

「若い世代に『ものでづくり』の楽しさ、魅力を伝えていきたい」

## PROFILE

## 菅原 慎也 (すがはら・しんや)

1955年生まれ。広島県出身。  
 1979年、山梨大学工学部卒業。同年松下電器産業（現パナソニック）入社。  
 1990年、甲府カシオに転職。  
 2007年、埼玉県の小規模開発会社に転職。  
 2014年、山梨にて起業、株式会社セルネオテックを設立。  
 2016年から2020年まで、山梨大学工学部にて非常勤講師を務める。

## INFORMATION

株式会社セルネオテック  株式会社セルネオテック

<https://cellneotech.com/>

所在地	〒400-0005 山梨県甲府市北新2-12-17 TEL 055-287-6845 FAX 055-287-6869
設立	2014年
資本金	950万円
事業内容	技術コンサルティング、設計開発および試作部品製作の受託
代表挨拶	35年以上にわたって大手メーカーの設計現場で活動してきた経験を活かし、「多くの企業様のお役に立ちたい」ということを目的の一つとして、2014年(平成26年)株式会社セルネオテックを設立しました。主な業務は、「ものづくり支援」と「ものづくり受託」です。  ものづくり現場（開発・設計・製造など）や営業先のお困りごとを解決し、「保有技術をさらに発展させたい」「従来の固定概念を打ち破りたい」「新しいジャンルに挑戦したい」を実践していくお手伝いをすることを目指しています。



技術賞を受賞した日本福祉工学会の表彰式

「ものづくりに携わっておよそ半世紀。「私自身ものづくりの仕事は大好きです。今の事業は半分趣味のよなもので楽しんで取り組ませていただいています」  
 こう瞳を輝かせて語る菅原代表。そんな彼の座右の銘は、アメリカの作家、ナポレオン・ヒルの「人は思った通りの人間になる」という言葉。「どんな無理難題でも、諦めずに思い続ければ実現するということ。私もこれまで色んな高い壁にぶち当たってきましたが、想い続けることで乗り越えられてきたという実感があります」  
 「日本のものづくりに人生を捧げてきた」といっても過言ではないキャリアを歩んできた菅原代表。現場にこだわるプレーヤーとして、また後輩を指導する導き手として、今後も、菅原代表にしかできないオンリーワンの活動を続けていく。

や魅力を感じます」

ものづくりに携わっておよそ半世紀。「私自身ものづくりの仕事は大好きです。今の事業は半分趣味のよなもので楽しんで取り組ませていただいています」